

■ 4－そう思う ■ 3－どちらかといえばそう思う ■ 2－どちらかといえばそう思わない ■ 1－そう思わない

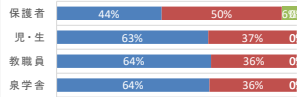
人権同和教育の充実

明るく楽しい学級作り

児童会・生徒会活動の充実

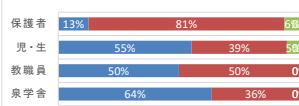
1

子供は、生活の中で友達と認め合ったり、支え合ったりすることができていますか。



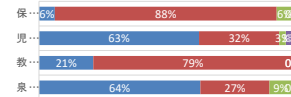
2

子供は、自分の考えを伝えたり、実現するために行動したりすることができていますか。



3

児童会・委員会・生徒会は、活動が充実していると思いますか。



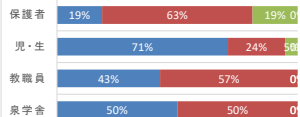
① 児童生徒、保護者、協議会ともに肯定的に感じている。保護者も児童生徒よりは低い、肯定的な意見が多い。授業や特別活動、日常生活の中で意図的に自他共に大切にすることを育てる取組を継続して進めていく。
② 児童生徒、教職員、協議会は同じように感じているが、保護者とは若干の差があるが肯定的な意見が多い。それに対して、③については、児童生徒は、児童会や生徒会は主体的に活動していると感じているが、活動の見直しを生徒会中心に考え次年度に生かす取組について準備を行っていく。

道徳教育の充実・心の教育

いじめ・不登校の防止

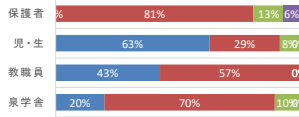
4

子供は、日常生活の中でお互いに意見を出し合い、話し合いをすることができていると思いますか。



5

子供は、悩みや困ったことがあったとき、気軽に相談したり、困っている友達に進んで声をしていますか。

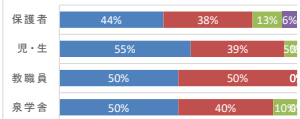


④の道徳教育や⑤のいじめ・不登校の防止について、保護者からの意見に否定的な意見が多い。児童生徒については9割以上が肯定的である。特に⑤については、保護者からは、もっと、相談体制や児童生徒同士の声かけについて行ってほしいと考えている。学校だけでなく、児童生徒同士や保護者の情報、地域の声等からの情報収集を行い、教育相談や外部の専門機関等と連携して充実させたり、児童生徒同士で表現できる場を設定したりしながら、児童生徒が自分の思いを伝えることができるような取組を進めていく必要がある。

確かな学力の育成

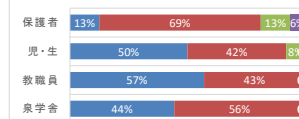
6

子供は、やる気をもって授業を受けることができますか。



7

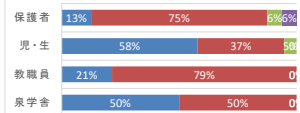
子供は、わからないことがあれば何とか解決しようと粘り強く努力していますか。



⑥⑦⑧意欲的に学習に参加している児童生徒が多く、教職員も同じように捉えている。しかし、保護者は、やる気をもって授業を受けてほしいと20%が感じていることが分かる。昨年度も同じような結果があることから、保護者は家庭学習の状況を見ての判断であり学習内容の理解度への不安と考える。授業では、個別の指導の充実、基礎基本の定着の徹底、協働的な学びの充実を図る。本年度の熊本県学力学習状況調査でも、個人差があったり、基礎基本の定着が十分でなかったりする中で、授業改善を職員総体ですすめて、「わかる授業」「みんなが話し合い解決していく授業」「一人一人の子どもが主役となる授業」といった主体的、協働的で深い学びを充実させる。また小中連携ならではの学び合いや取組についても今後検討していく。
⑨本校の児童生徒は、7～8割程度がハッピーブック運動を達成している。保護者・児童生徒、教職員との意識の差があることから、本を読む時間や読書に親しむ実感を感じる機会を増やす必要がある。現在、担当が丁寧な計画のもと、図書委員会の取組などでの啓発を行っているので、読む時間の確保や家庭での読書への啓発を継続する。

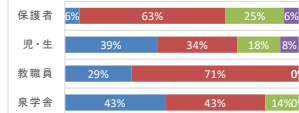
8

子供は、授業の中で、自分の考えをもち、意見交流しながら考えを深めることができますか。



9

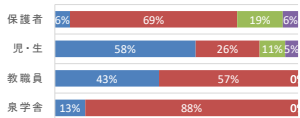
子供は、目標とする冊数をめざして進んで本を読んでいますか。(小12...100 小34...80 小56...60 中...30)



健やかな体の育成

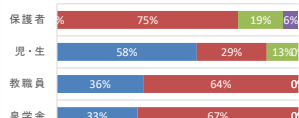
10

子供は、自分の生活習慣や体力の状況を知り、改善しようと努力していますか。



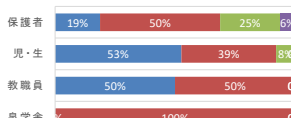
11

子供は、むし歯の予防や治療に心がけていますか。



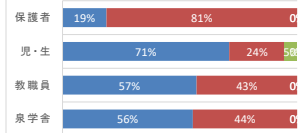
12

子供は、自分自身の食生活について関心があると思いますか。



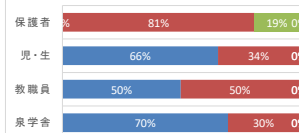
13

子供は、危険を察知し、事故やケガを回避しようと心がけていますか。



14

子供は、美しい環境づくりに自ら取り組んでいますか。



⑩⑪⑫生活習慣、むし歯、食に関することについて、昨年度以上に保護者の意識が否定的である。学校ではいずみん大作戦を中心に取組を進めているので、保護者への呼びかけや協力を抑えながら連携して進める取組を行っている必要がある。これらに関する授業も行っているので児童生徒により伝わる授業の実施も検討していく。
⑬安全面については、さらに児童生徒が自助できるようにあらゆる場面で指導を継続する。
⑭環境面については、保護者の回答が低い。児童生徒、教職員、協議会が100%であることから、学校での状況を共通理解し、ともに児童生徒への声かけを行う必要がある。

令和6年度 自己評価書・関係者評価書

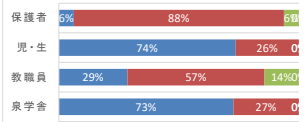
学校名 泉小中学校

■ 4－そう思う ■ 3－どちらかといえばそう思う ■ 2－どちらかといえばそう思わない ■ 1－そう思わない

地域とともにある学校づくり

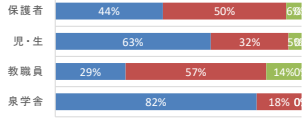
15

子供は、地域の方々に感謝の心をもってあいさつができていますか。



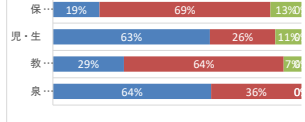
16

子供は、体験活動や交流活動に楽しそうに参加していますか。



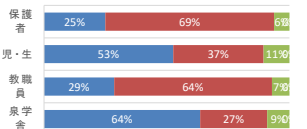
17

子供は、泉町の昔のことや仕事のこと、伝統文化について関心をもっていますか。



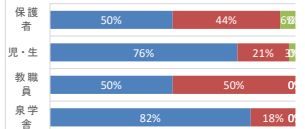
18

子供や学校は、ふるさと泉のよさを知ったり、伝えたりしていますか。



19

子供は、多くの人に見守られて安全に登下校できていますか。



⑮児童生徒、保護者の多くが地域の方への挨拶ができていると感じている。しかし、学校での様子を見ると、教職員がもう少しあいさつを頑張ってほしいと考えているので、朝のあいさつ運動や学校での声かけを、今後も継続していきたい。

⑯児童生徒、保護者とも体験学習や交流活動へ意欲的に参加されている。教職員の意識が低いので、学校全体で取り組めるような効果的な体験活動を今後も進めていきたい。

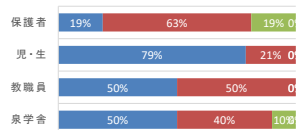
⑰⑱泉町のよさや伝統芸術について関心をもっている児童生徒は8割以上である。体験活動や日常での活動等でより泉のよさを感じるようなつながるような取組を行う必要がある。

⑲保護者は安全な登下校について、不安を感じている方もいるので、PTAや地域と協力して何らかの取組を行うことも検討したい。

小中一貫教育の充実

20

学校は、義務教育9年間を見据えた指導を行っていると思いますか。

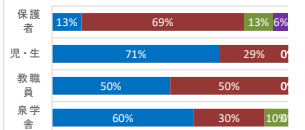


②③児童生徒は多くの先生方が授業も含めて関わってくれるよさを感じている。しかし、保護者の2割は否定的である。9年間を見据えるという意味を再度確認し小中一貫教育校の強みを生かして、児童生徒を小中学校職員全員で見とることを今後も継続していく。

家庭・地域の連携について

21

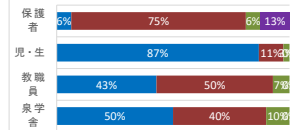
学校は、少人数の子供たちへの効果的な指導を行っていると思いますか。



②③児童生徒、教職員ともに、9割以上が発達段階に応じた効果的な指導が行われていると感じている。また、保護者は2割程度は否定的である。保護者にとって、より効果的な指導や発達段階に応じたカリキュラムの編成も行い、保護者の周知を図る機会をもちたい。小中学校職員同士で交流を密にし、児童生徒の実態に応じた学習や取組を今後も継続して続けていく。

22

学校は、小学校・中学校の発達段階を大切にした指導を行っていると思いますか。



自由記述

○今の所は特に何もありません。学校に行くのを楽しみにしています！友達と会うのを楽しみにしています！たまにちょっとしたゴタゴタがあるみたいですが、話を聞いてあげてヒントをあげるとなんとか解決しているようでした。要望があるとすれば、子供達は近所に友達がいないので遊びたいみたいです。部活動もなくなったので元気を持て余しているように感じます。放課後など遊んだりする時間などがあるといいと感じました。

○今の所は特にありません。中学になって多少、思春期らしさが出てきたように思います。勉強面では難しくなってきた理数系に苦手意識を持ってしまっているように思います。集中して考えないと解けないので本人の集中力の問題だとは思いますが、家庭でも色々言い聞かせてはいますが、何かモチベーション等が上がるような策があればアドバイス頂くとありがたいです。

次年度へ向けて

- ・いじめ・不登校防止に基づいた学級作りや児童の居場所がある学級作りを目指して、担任を中心に児童生徒の様子を把握し、全職員で共通理解実践や指導を行います。（各学年・児童会生徒会・全校集会活動、揭示教育の充実）
- ・いじめ・不登校の未然防止のために、より一層充実した教育相談や学習の取組を行います。（心のアンケートや教育相談の充実、SC・SSWの活用推進、八代市教育サポートセンターとの連携）
- ・地域から学ぶ学習を広げるために、学校運営協議会や地域学校協働活動と連携し、泉町のものやひとを生かした体制を広げ、実際の活動へつなげます。
- ・生活習慣や食生活についてはいずみん大作戦をはじめ講話等で啓発を進めます。
- ・わかるできる授業を目指して全職員による授業力・指導力の向上と生き方教育の推進に努めます。
- ・今後も保護者、安全協会、地域学校安全指導員の方と連携し、児童生徒の登下校の安全のための取組を行います。
- ・日常活動の中で、児童生徒同士が伝えたいことを伝え合える環境にするために、日頃から互いの思いを話したり、聴いたりする場面を増やします。（委員会活動や行事の充実）
- ・地域との交流活動や体験活動また、他校との交流は増やす予定です。